

国際交流基金アジアセンター×東京国際映画祭 co-present

トークシリーズ@アジア交流ラウンジ

～世界の第一線で活躍する映画人による 8 日間のスペシャル企画～

国際交流基金（JF）は、第 34 回東京国際映画祭（Tokyo International Film Festival：以下、TIFF）のプログラムの一環として、「トークシリーズ@アジア交流ラウンジ」を開催します。「トークシリーズ@アジア交流ラウンジ」は、昨年に続く第二弾で、是枝裕和監督を中心とする検討会議メンバー*の企画のもと、アジアを含む世界各国・地域を代表する映画人と第一線で活躍する日本の映画人が語り合うトークシリーズです（*検討会議メンバーについては後頁をご参照ください）。昨年のシリーズは、のべ 1 万 2 千人以上に視聴いただいたほか、ライブ配信中には、インタラクティブに多くの質問が寄せられる等、好評を博しました。

今年のテーマは「越境」。国境に限らず、さまざまな「境（ボーダー）」を越えること、越えていくことを含め、映画にまつわる思いや考えを存分に語り合ってください。今年は可能な限り、海外からのゲストを実際に日本にお招きし、リアルな場でのトークの実現と映画人同士の交流の場である「アジア交流ラウンジ」を目指します。東京ミッドタウン日比谷の映画祭会場から 8 日間毎日ライブ配信していきます。またライブ配信の特性を活かし、世界中からの質問も受け付けます。ご期待ください。

記

事業名称：国際交流基金アジアセンター×東京国際映画祭 co-present

トークシリーズ@アジア交流ラウンジ

主催：国際交流基金アジアセンター、東京国際映画祭

開催期間：2021 年 10 月 31 日（日）～11 月 7 日（日）*毎日 1 セッション（合計 8 回）を実施予定

登壇者：プリランテ・メンドーサ × 永瀬正敏

カミラ・アンディニ × 岨手由貴子

アピチャップン・ウィーラセタクン × 西島秀俊

バフマン・ゴバディ × 橋本愛

イザベル・ユペール × 濱口竜介

ほか多数

全トークのラインナップや視聴申込方法等詳細は、10 月中旬頃に発表します。

本事業の実施・開催にあたっては、新型コロナウイルス感染予防および感染拡大の防止のため、細心の注意を払い、感染症対策を徹底します。

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 コミュニケーションセンター（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp

■ ブリランテ・メンドーサ × 永瀬正敏



ブリランテ・メンドーサ
映画監督／プロデューサー



永瀬正敏
俳優

■ カミラ・アンディニ × 岨手由貴子



カミラ・アンディニ
映画監督



岨手由貴子
映画監督／脚本家

■ アピチャップン・ウィーラセタクン × 西島秀俊



アピチャップン・ウィーラセタクン
映画監督



西島秀俊
俳優

■ バフマン・ゴバディ × 橋本愛



Photo by Serhat Bayram

バフマン・ゴバディ
映画監督



橋本愛
女優

■ イザベル・ユペール × 濱口竜介



© Peter Lindbergh, courtesy Peter Lindbergh Foundation, Paris

イザベル・ユペール
女優



濱口竜介
映画監督／脚本家

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 コミュニケーションセンター（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp

【登壇者プロフィール】（順不同）

ブリランテ・メンドーサ 映画監督／プロデューサー

監督第一作『マニラ・デイドリーム』（05）でロカルノ国際映画祭ビデオ部門金豹賞を受賞。『どん底』（07）でベルリン国際映画祭カリガリ賞、『キナタイ マニラ・アンダーグラウンド』（09）でカンヌ国際映画祭監督賞、『汝が子宮』（12）でヴェネチア国際映画祭ナヴィチェッラ・ヴェネチア映画賞を受賞。『ローサは密告された』（16）はカンヌ国際映画祭最優秀女優賞に輝いた。近年ではフランスの芸術文化勲章シュヴァリエを受章、また、自身が主催する映画祭を立ち上げ、若手への技術指導といった活動も積極的に行っている。『復讐』（21）と日本とフィリピンの合作映画『GENSAN PUNCH 義足のボクサー(仮)』（21）の二つの新作が第34回東京国際映画祭で上映。

永瀬正敏 俳優

1966年宮崎県生まれ。1983年、映画『シオンベン・ライダー』でデビュー。日本アカデミー賞最優秀助演男優賞ほか国内で受賞多数。また海外作品にも多数出演しカンヌ国際映画祭・最優秀芸術貢献賞『ミステリー・トレイン』（89）、ロカルノ国際映画祭グランプリ『アジア・ビート（香港編） オータム・ムーン』（91）、トリノ映画祭審査員特別賞『コールド・フィーバー』（95）では主演を務めた。台湾映画『KANO』（14）では、金馬獎で中華圏以外の俳優で初めて主演男優賞にノミネートされ、『あん』（15）、『パターソン』（16）、『光』（17）でカンヌ国際映画祭に3年連続で公式選出された初のアジア人俳優となった。今年公開作は『名も無い日』（21）、『茜色に焼かれる』（21）。

カミラ・アンディニ 映画監督

1986年ジャカルタ生まれ。長編デビュー作『鏡は嘘をつかない』（11）でインドネシアの漂海民の暮らしを描き、第二作『見えるもの、見えざるもの』（17）ではバリの哲学スカ・ニスカを二元的な映像世界に展開。両作品は50以上の映画祭に参加、ベルリン国際映画祭ジェネレーション K プラス部門をはじめ約30の賞を国内外で受賞。『ディアナを見つめて』（15）、『メモリア』（16）、『Sekar』（18）、日本のオムニバス映画『エンジェルサイン』（19）の一編『故郷へ』等、短編制作を通じて独自のビジョンを発信するほか、最近では舞台作品の演出も手がけている。最新長編作『ユニ』（21）がトロント国際映画祭で世界初上映。

岨手由貴子 映画監督／脚本家

1983年長野県生まれ。大学在学中、篠原哲雄監督の指導の元で製作した短編『コスプレイヤー』（04）が水戸短編映像祭、ぴあフィルムフェスティバルに入選。初の長編『マイムマイム』（07）がぴあフィルムフェスティバルで準グランプリ、エンタテインメント賞を受賞。バンクーバー国際映画祭、香港アジア映画祭等、国内外の映画祭でも上映される。文化庁委託事業若手映画作家育成プロジェクト（ndjc）で35mmフィルム作品『アンダーウェア・アフェア』（10）を製作。長編商業デビュー作『グッド・ストライプス』（15）で第7回TAMA映画賞最優秀新進監督賞、2015年新藤兼人賞金賞を受賞。山内マリコの同名小説を映画化した『あのこは貴族』（21）が公開。

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 コミュニケーションセンター（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp

アピチャッポン・ウィーラセタクン 映画監督

1970 年バンコク生まれ。タイ東北部コンケンで育つ。1994 年、映画・映像制作を始める。2000 年、自身初の長編作品を完成。しばしば非直線的で、転位の強い感覚を伴う作品は、記憶、個人レベルのポリティクス、社会的な問題を密やかな形で扱う。数々の映画やアートプロジェクトは、カンヌ国際映画祭パルムドールをはじめ受賞多数。進行中のプロジェクトであるプロジェクション・パフォーマンス『フィーバー・ルーム』は世界各国で上演されている。コロンビアを舞台にイギリスの女優ティルダ・スウィントンを主演に迎えた最新作『MEMORIA メモリア』（21）が第 74 回カンヌ国際映画祭審査員賞受賞。

西島秀俊 俳優

1971 年東京都生まれ。1994 年、『居酒屋ゆうれい』で映画初出演。以降、数々の映画やドラマに出演。近年の作品に『劇場版 MOZU』（15）、『クリーピー 偽りの隣人』（16）、『空母いぶき』（19）、『風の電話』（20）、『ドライブ・マイ・カー』（21）、ドラマ『シェフは名探偵』（21／テレビ東京）、『おかえりモネ』（21／NHK）等がある。2021 年秋以降の新作として、ドラマ『真犯人フラグ』（日本テレビ）、映画『劇場版オトツベ パパ・ドント・クライ』（声の出演）、『劇場版きのう何食べた？』、『99.9-刑事専門弁護士- THE MOVIE』等。

バフマン・ゴバディ 映画監督

1968 年バーネ（イラン）生まれ。8 ミリ短編ドキュメンタリーを出発点として映画を撮り始め、イラン史上初の長編クルド映画『酔っぱらった馬の時間』（00）でカンヌ国際映画祭カメラドールを受賞。同作のほか、『亀も空を飛ぶ』（04）、『半月 - Half Moon』（06）等が世界各地の映画祭で受賞するが、母国ではほぼ未上映。テヘランのアンダーグラウンド音楽シーンを描いたセミ・ドキュメンタリー『ペルシャ猫を誰も知らない』（09）は、当局の許可が得られず厳しい制限の中で撮影され、作品完成後、イランを離れて活動することを余儀なくされた。ロジャー・ウォーターズ（ピンク・フロイド）がプロデュースしたトルコで撮影された最新作『四つの壁』（21）が、第 34 回東京国際映画祭でワールド・プレミア上映。

橋本愛 女優

1996 年熊本県生まれ。映画『告白』（10／中島哲也監督）に出演し、注目を集める。『桐島、部活やめるってよ』（12／吉田大八監督）でキネマ旬報ベスト・テン新人女優賞、日本アカデミー賞新人俳優賞等を受賞。NHK 連続テレビ小説『あまちゃん』（13）でエランドール賞新人賞を受賞。2015 年、主演二作品『リトル・フォレスト』（14／森淳一監督）『ワンダフルワールドエンド』（15／松居大悟監督）にてベルリン国際映画祭に初参加。映画のみならず、テレビドラマやアニメ、演劇等多方面で活躍中。2021 年の NHK 大河ドラマ『青天を衝け』に出演中。

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 コミュニケーションセンター（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp

イザベル・ユペール 女優

フランスを代表する国際派の映画・舞台女優。主な受賞（映画）に、『レース編む女』（77／クロード・ゴレッタ監督）英国アカデミー賞新人賞、『主婦マリーがしたこと』（88／クロード・シャブロール監督）、『沈黙の女/ロウフィールド館の惨劇』（95／クロード・シャブロール監督）でのヴェネチア映画祭女優賞、『ガブリエル』（05／パトリス・シェロー監督）および彼女の功績に対するヴェネチア映画祭特別獅子賞（生涯功労賞）、『ヴィオレット・ノジュール』（78／クロード・シャブロール監督）、『ピアニスト』（01／ミハエル・ハネケ監督）でのカンヌ映画祭女優賞、『沈黙の女/ロウフィールド館の惨劇』（95／クロード・シャブロール監督）、『エル ELLE』（16／ポール・バーホーベン監督）でのセザール賞、同じく『エル ELLE』でのゴッサム・インディペンデント映画賞、ゴールデングローブ賞、インディペンデント・スピリット賞のほか、アカデミー賞主演女優賞にノミネートされた。舞台賞では、その功績を称えられモリエール賞およびローマの「XVI Prix Europe pour le Théâtre」を受賞。また、フランスの名誉勲章、メリット勲章オフィシエ章、芸術文化勲章コマンドゥール章を受章。第 62 回カンヌ国際映画祭では審査員長を務めた。

濱口竜介 映画監督／脚本家

1978 年神奈川県生まれ。東京藝術大学大学院映像研究科の修了制作『PASSION』（08）がサン・セバスチャン国際映画祭や東京フィルメックスに出品され高い評価を得る。演技未経験の女性 4 人を主演に起用した 5 時間 17 分の長編『ハッピーアワー』（15）が、ロカルノ、ナント、シンガポールほか国際映画祭で主要賞を受賞。商業映画デビュー作『寝ても覚めても』（18）がカンヌ国際映画祭コンペティション部門選出、短編集『偶然と想像』（21）がベルリン国際映画祭で銀熊賞（審査員大賞）、脚本を手掛けた黒沢清監督作『スパイの妻（劇場版）』（20）がヴェネチア国際映画祭銀獅子賞を受賞。商業長編映画 2 作目『ドライブ・マイ・カー』（21）は、村上春樹の原作に惚れ込み自ら映画化を熱望、脚本も手掛ける。

* 検討会議メンバー（五十音順、敬称略）：

荒木啓子（びあフィルムフェスティバル ディレクター）

石坂健治（東京国際映画祭 シニア・プログラマー／日本映画大学 教授）

市山尚三（東京国際映画祭 プログラミング・ディレクター）

是枝裕和（映画監督）

土田環（山形国際ドキュメンタリー映画祭 プログラムコーディネーター／早稲田大学 講師（専任））

福岡美由紀（株式会社分福 プロデューサー）

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 コミュニケーションセンター（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp

【その他、本年の国際交流基金と TIFFF の共同での取組み】

・国際交流基金アジアセンター×東京国際映画祭 co-present「アジアの未来 部門」

合言葉は"アジア発、世界へ！未来へ！"ー2013 年の第 26 回 TIFFF から始まった「アジアの未来 部門」は今年で 9 年目を迎えます。長編 3 本目までのアジア（日本・中東を含む）の新鋭監督の作品を世界に先駆けて上映するアジア・コンペティション部門です。最優秀作品には「アジアの未来 作品賞」が贈られます。今年は日本映画 2 本が入選し、すべて世界初上映（ワールド・プレミア）の 10 作品が競い合います。

・アジア映画の共催上映

「コンペティション 部門」、「ガラ・セレクション 部門」、「ワールド・フォーカス 部門」等で魅力あふれるアジア映画を多数上映し、アジアの多様で豊かな映画文化を紹介します。

共催上映するアジア映画の詳細は、国際交流基金アジアセンターウェブサイトをご覧ください。 <https://jfap.jp>

【第 34 回東京国際映画祭 開催概要】

開催期間：2021 年 10 月 30 日（土）～11 月 8 日（月）

会場：日比谷・有楽町・銀座地区、ほか都内の各劇場および施設・ホールを使用

公式サイト：www.tiff-jp.net

【国際交流基金アジアセンター（The Japan Foundation Asia Center）】 <https://jfap.jp>

独立行政法人国際交流基金は、全世界を対象に総合的に国際文化交流事業を実施する日本で唯一の専門機関です。アジアセンターは 2014 年 4 月に設置され、ASEAN 諸国を中心としたアジアの人々との双方向の交流事業を実施・支援しています。日本語教育、芸術・文化、スポーツ、市民交流、知的交流等さまざまな分野での交流や協働を通して、アジアとともに生きる隣人としての共感や共生の意識を育むことを目指しています。

【東京国際映画祭（Tokyo International Film Festival, TIFFF）】 www.tiff-jp.net

本年度 34 回を迎える東京国際映画祭は日本で唯一の国際映画製作者連盟公認の国際映画祭です。1985 年、日本で初めて大規模な映画の祭典として誕生した TIFFF は、日本及びアジアの映画産業、文化振興に大きな足跡を残し、アジア最大級の国際映画祭へと成長しました。いまや最も熱気溢れるアジア映画の最大の拠点である東京に、世界中から優れた映画が集まり、国内外の映画人、映画ファンが新たな才能とその感動に出会い、交流する場を提供します。

以上

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 コミュニケーションセンター（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp